

IV-18 P I 方式による幹線道路整備計画の策定 ～街づくり・道づくり(大内町・白鳥町)検討会～

建設省香川工事事務所 道路調査課 山本 巧
同 上 武田 融昌
同 上 ○稲垣 啓

建設省香川工事事務所は、香川県大内町・白鳥町で、PI方式※を導入した住民参加型の道路整備計画の策定を試行した。その過程を紹介するとともに、得られた効果と課題・反省点を報告する。

※PI方式：「パブリック・イン・プランメント」方式。計画の策定に際し広く住民の意見を調査し、かつ策定の過程を知る機会を設ける住民参加手法。参加は、意見交換会やアンケートなど様々な手法でおこなう。

1. 地域の現状

大内町・白鳥町(図-1)は、昨今の道路ネットワーク形成により、香川県の東の玄関口としての位置付けが高まっている。しかし、地区唯一の幹線道路の国道11号では慢性的な渋滞が発生し、住民の日常生活や社会・経済面においても多大な損失が生じている。また、国道11号とJR高徳線に挟まれた狭い範囲に位置する市街地は、その拡大が妨げられており、街づくりと一体となった幹線道路整備計画の策定が急務となっている。



図-1 大内町・白鳥町の位置

2. PI方式の導入

昨年2月、街づくりの主体である住民の声を反映させた幹線道路整備計画策定のために、建設省・香川県庁・両町役場が事務局となり、PI方式を導入した『街づくり・道づくり(大内町・白鳥町)検討会』を設立した。地域の代表者など11名の委員(表-1)で構成される検討会は、1年間で4回の会議を開催したほか、住民アンケートなども実施して地域の現状と課題を把握、幹線道路整備計画と今後の街づくりの方向性を検討し、その成果を提言書としてとりまとめた。

会議は一般公開とし、全世帯に配布される町広報誌(月刊)で開催の案内と会議結果の紹介をおこなったほか、新聞発表による広報も積極的に実施した。また、会議資料・議事録・アンケート結果など関係するすべての文書は、町役場の窓口にて閲覧可能とし、くり返し意見が集約できる体制をとった。その他、会議資料を事前に検討会委員へ送付し、深みのある議論がなされるよう配慮した。

表-1 検討会構成委員

委 員	香川大学経済学部 教授 (座長)
	大内町商工会 会長
員	白鳥町商工会 会長
	香川県中小企業家同友会 東讃支部相談役
事 務 局	東かがわ青年会議所 前理事長
	白鳥町本町婦人会 会長
事 務 局	大川広域消防本部 消防長
	大内町 助役
事 務 局	白鳥町 助役
	建設省 香川工事事務所長
事 務 局	香川県 土木部次長兼道路建設課長
	建設省 香川工事事務所道路調査課
事 務 局	香川県 道路建設課
	大内町 建設課
事 務 局	白鳥町 建設課

3. 検討のながれ

1年間にわたる検討会は、おおむね以下の①～④のステップで進行した(図-2)。

①現状の課題・問題点の把握

現状の街・道路が抱える課題とニーズを適確に把握するため、委員による討議のほか、事務局は、地域住民へのアンケート調査と関係機関へのヒアリング調査(表-2)をおこなった。

表-2 ヒアリング調査実施先

緊急防災	大内警察署、大川広域消防本部
教育機関	両町の小学校、中学校(各2校)
文化財	両町の文化財保護審議会委員

両町内より無作為抽出した成人1,600名を対象におこなったアンケートでは、現況道路の問題箇所、道路整備の必要性、理想とするまちの姿などを調査。郵送方式で56%の高い回収率となり、住民の関心の高さも伺える結果となった。

②課題・問題点の整理と、その対応策を検討

事務局より提示されたアンケート・ヒアリング結果をもとに、検討会は現状の課題・問題点の整理と、その対応策の検討をおこなった。討議では「東西方向の幹線道路が国道11号のみ」であることや、「国道と」JRが

近接併走しているために市街地の発展が阻害」されていることなど多数の課題が明らかになり、その多くは国道11号に起因していることが判明した。討議の結果検討会は、「課題解消には、国道11号の整備が不可欠」との結論に達した。

③11号整備3案の比較と、最適案の決定

②の結論をうけ事務局は、国道11号整備案3案(図-3)と、各案の比較評価表を提示した。評価指標としては、B/C分析や事業進捗の難易度などの一般的なものに加え、各案が街づくりに与える影響や、街づくりの問題点をどれだけ解消できるか等、この地域特有の評価項目も採用した(表-3)。

検討会では、評価項目の疎漏や評価の妥当性について討議し、道づくり・街づくり双方の観点からみて、最適案は案3)南側BP案であるとの結論に至った。

④南BPを軸とした街づくりのアイデアを検討

③の結論をうけ検討会は、南側BPを軸に創りだされるであろう新たな街の理想の姿や、現道周辺地域の活力低下の防止策についても検討をおこない、多くの意見・アイデアを得た。これらの検討を経て、検討会は提言を取りまとめた。

検討過程や内容・結果、アンケート・ヒアリング調査結果などは、提言とともに、委員と事務局の手で提言書としてまとめられた。提言書は関係行政機関へ提出されるほか、町役場窓口での住民への配布、地域の図書館・学校への送付などを予定している。

4. 効果と課題・反省点

四国初の導入となったこのPI方式での検討会を終えて、得られた効果及び課題・反省点をまとめると、以下のとおりである。

【得られた効果】

- ・地元委員による討議や、アンケート・ヒアリング調査により、地元ニーズの適確な把握が可能となった。
- ・会議の一般公開や町広報誌の活用により道路整備計画策定過程の透明性が確保された。
- ・B/C手法の紹介や整備案3案比較検討などを通じて、住民が道路事業について理解を深める場を提供できた。
- ・今後、委員を中心とした街づくり活動への自発的な取り組みなど、住民の行政参加への意識の高まりが期待できる。

【課題・反省点】

- ・平日昼間の開催であったため、一般参加者が少なかった。
- ・20歳以上対象のアンケートや、団体の長を中心とした委員構成のため、今後地域の中心となる次世代の意見の反映が不十分であった。
- ・「BP整備なら南側」という地元の意識が強かったため、最適案選定の時点で南側BP案に異論が出なかった。
- ・事務局による会議資料の作成や3案提示など、全体を通じ事務局主導で検討を進めた感がある。

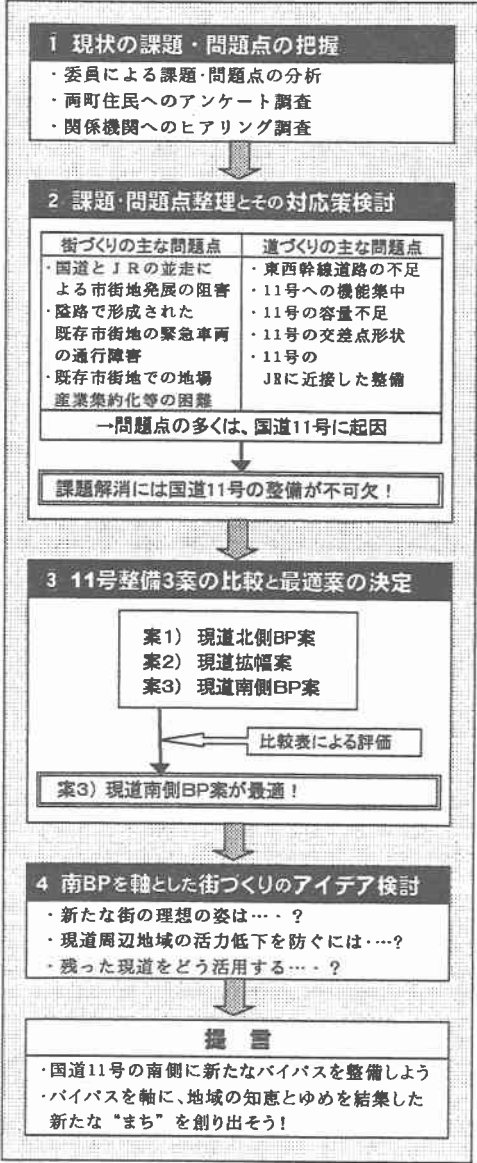


図-2 検討の流れ

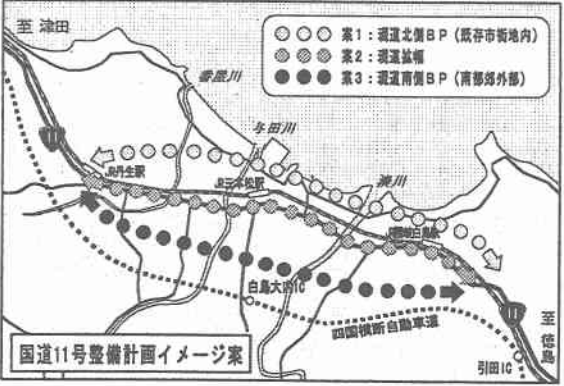


図-3 国道11号整備3案

表-3 3案比較の評価項目	
一般的な評価項目	この地域特有の評価項目
・B/C分析	・既存市街地再整備への貢献
・事業進捗の難易	・新市街地拡大の可能性
・施工性	・産業・商業の発展可能性
・自然・地域への影響	・観光資源の活用
・高速道路へのアクセス	